

『 J C 宣言 』

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り開き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動する事を宣言する

綱 領

われわれ JAYCEE は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうするもの 相集い 力を合わせ
青年としての
英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

J C ソング

一、 J C J C J C

世界を結ぶ 若き団結

あたらし 新しき世紀の 希望となりて

とわ 永遠に繁栄えん 我等の集い

二、 J C J C J C

ほうし 奉仕の理想 探求しつつ

くに 祖国の進歩の 力となりて

さきが 先駆けゆかん 我等の集い

若い我等

一、 若い我等が 手を取り合つて

進む行手の 青い空に
輝く J C 明るい希望

足なみそろえて
行こうじゃないか

二、 世界を結ぶ 若さの力

互いに尽くす 楽しさこそ
J C の理想だ 新しい日だ

足なみそろえて
行こうじゃないか

三、 若い我等の 心を集め

つくる集いに 未来をかけて
J C の仲間には 皆信じあう

足なみそろえて
行こうじゃないか

明日のために

明日のために

一、 若さと若さが 手を結び

明日にいつも 向うのだ
豊かな未来めざしつつ

日本の道を 創ろうよ
行こう J A Y C E E

明日のために

二、 心と心を つなぎ合い

大きな虹を かけるのだ
生きてることの喜びを

すべての人に 投げかけて
行こう J A Y C E E

明日のために

三、 命と命が 満ちあふれ

光りとなって 燃えるのだ
世界の窓に 一つの日も

希望の夢は はばたくよ
行こう J A Y C E E

明日のために

公益社団法人長井青年会議所は1966年、長井の未来を拓く青年経済人が集い、県内4番目の青年会議所として創立されました。以来45年にわたり先輩諸兄から脈々と受け継がれた地域を愛する精神と、若さあふれる発想を持って地域社会の発展のためまちづくり運動を展開してまいりました。今年度、ひとつの節目を迎えるにあたり今まで以上に地域社会から必要とされる存在であり続けるために、活動の道しるべとなる今後5年間の運動指針を提言します。

〈2010～2014年〉

公益社団法人 長井青年会議所 運動指針

確かな地域連携社会の実現へ

～共に手を取り合うこころ豊かな地域の創造～

【まちづくり】

人と人との交流の輪を広げることが、地域全体を巻き込んだ活性化とまちづくりに対する意識の向上に繋がります。我々青年会議所が主導的に地域の抱える問題をしっかりと認識し課題解決に取り組み、その地域が持つ様々な資源を最大限に引き出し活用することで、その地に暮らす人たちの愛郷心を育み、更なるまちづくりに対する参画を促し、こころ豊かに暮らせるまちの醸成に努めます。

【ひとづくり】

多種多様な個のちからを集積、融合することは様々な問題に挑戦できる「つよさ」となります。輝く地域の未来を創造する経験と学びの中から個のちからも高まり、混沌とした現状を打開できる勇気が生まれます。地域社会の問題を解決する手法を見出し、地域資源の保全と価値を提供できる人材の育成を行います。

【こころづくり】

地域の未来を担う子供たちがこころ豊かに成長するために、地域社会と家庭、学校が三位一体となり、それぞれが常に問題意識をもって、学びの機会を創出していく事が大切であると考えます。地域社会の豊富な教育資源を効果的に結びつけ活用するコーディネート機能を担いながら地域教育を更に実践して参ります。

スローガン

公益社団法人 日本青年会議所 2013年度
スローガン

新しい時代への燈火となれ！

公益社団法人 日本青年会議所 2013年度
東北地区協議会 スローガン

LINK-TOHOKU

～つなごう！東北 新たなコミュニティーの創造へ向けて～

公益社団法人 日本青年会議所 2013年度
東北地区山形ブロック協議会 スローガン

清らかな「こころ」に火を燈そう！
～熱意、情熱こそが創造の源泉である～

公益社団法人 長井青年会議所 2013年度
スローガン

自己の信念を持って、決断！行動！！

2013年度

基本資料



2013年度 理事長
鈴木 喜典

所 信

おのが身はかえりみずして人のため

つくすぞ人のつとめなりける 明治天皇

日本には「言霊」という言葉があります。「言葉には霊的な力が宿る」という考え方を表したこの言葉は、和歌というものの本質を象徴しています。日本人は遙か昔から、自らの祈りや、生き方、そして自分の心の深いところにあるものを和歌「言霊」として、表現してきました。

戦後の歴史観の中で、日本人が忘れてしまったことがあるといわれます。それは明治天皇が謡われたこの和歌のような精神ではないでしょうか。一昨年発災した東日本大震災では、多くの人の心の奥底に存在した、このような精神が自分たち自身の中で再確認できました。非常に厳しく、悲しい災害でしたが日本人の心栄えを改めて知ることができました。

はじめに ～皆さん、幸せですか～

皆さん、幸せですか、私は幸せです。この混沌とした社会の中で、成長できる喜びを噛み締めながら生きてゆける。生きることができること、それだけでも幸せです。

日本はいま幸せですか。国民は幸せを感じながら生活していますか。その答えを言う権利があるのは総理大臣でもない、メディアでもない、我々一人ひとりなのです。

2011年「戦後社会が終わり、災後社会がやってきた」こんな言葉が生まれました。「失われた20年」、停滞期を浮遊する日本に2011年3月11日の東日本大震災は東北、日本から多くの人や物、まちそして元気を奪いました。直後に起こった原子力発電所事故では隣県福島の一部を、人が住むことができない国土に変え、ふるさとを失った多くの方々が、我が郷土山形をはじめ全国に移住しています。2年経った現在でも復興というには程遠く、落ち着いたというのが現状ではないでしょうか。政治は期待を背負って誕生した政権が紆余曲折の末に瓦解し、また新たな政権が日本の舵取りをする状

況です。そんな政局を眺めている間にも領土問題、増税問題、経済問題などを受け流すように、真剣に対峙しない姿勢の者がこの国に存在しています。その者は政治家でしょうか、公務員でしょうか、いいえ、我々国民、日本人全員なのです。日本人が国家の責任を他人事のように無関心になってしまったのはいつのころからなのでしょう。

この地、長井西置賜でも製造業の撤退が後を絶ちません。仕事の場を失った方々がこの地に住むことはできません。新たな仕事を求めるか、違う土地に移り仕事をするか、それがまちの衰退に繋がります。地方の右傾は日本全体よりも急な角度であることは間違いなく、今のままでは「国残って民居らず」となってしまいます。それを解決すべく、国は税金を撒き、新たな産業「観光やニュービジネス」という名の原石を見せ国民のご機嫌を取りに来ます。我々はその構想に反対するだけではなく、十分に理解し、分析し、自分たちのものとして活用、実行しようではないでしょうか。まちの、自分の「幸せ」を得るために最大限活用しようではありませんか。そしてみんなでまちの未来を考え、みんなで「幸せ」になりましょう。

国家が経済で破綻しても国民は残ります。しかし日本人としての文化、伝統そして気概を失えば日本は無くなります。大丈夫、いまの日本は駄目な国になったわけではありません。成長期を過ぎ、安寧の中、新たな道を探っている臥薪嘗胆の精神を持って生きるときなのです。みんなで探しましょう、真剣に。

すべてのひとが創造する未来のまち

まちはどのように創られるのでしょうか。その地に人が住むということは必ず目的があります。そこに労働の場があり、住居の環境が整い、健やかに、幸せに生活ができる、これらの条件で人はその場にいる目的ができます。JC活動ははたして、まちづくりにおいてどの目的を満たし、そして人々の心に幸せをもたらす事ができるのでしょうか。創立以来48年間、先輩諸兄はそれぞれの時代に出現した諸問題、未来を見据えた課題に対して、JC運動で解決できる道を模索し、それを実施してきました。その志を我々は決して忘れず、受け継ぎ、更なるまちの躍進に努めたいと思います。

4年前より継続事業として実施してきた「みんなで灯そう～夢灯～」。子供たちが将来の夢や希望をランタンに描き、地域最大の資源であるあやめ祭り、花が満開の時期に園内へ設置し、ロウソクの灯りを灯す。そして毎年、準備段階や事業当日、JCメンバー以外にも100名を超えるボランティアの支援を受け、実施してきました。「夢灯」の事業目的の一つではありません。様々な団体でまちづくりに関わり、まちの未来の創造に立ち上がっている仲間が、「夢灯」という1つの事業で更なる輪を広め、まちの未来を共に創造する。子供たちがランタンに願いを書いてもらい、自分の未来を

見つめる。事業当日は子供たちに人気のアトラクションや様々な人に想いを伝えるライブイベントなど。地域を元気にしたい、笑顔をみんなに分かち合いたい、そういった様々な対象者、目的を持って事業を実施してきました。今年度5回目を実施する節目のときに検証したいと考えます。事業規模を更に大きくするのではなく、地域について広く、深く考え、それぞれの目的、内容が合致しているのか、問題点、課題、良い点、それぞれを混濁せずにそれぞれの箇所を単独で検証し、更なる進化したまちづくり事業として次世代へ繋ぎたいと思います。

4年前「夢灯」初年度、当時の委員会内で事業検討に迷ったとき、私も一常任理事として委員会へ参加し事業立案に関わりました。その志は4回目を経験しても何ら変わっていない。しかしながらJC内部だけで準備、実施するには規模が大きくなり過ぎて人間的、時間的支障がでています。それを諸団体にお手伝いいただいて実施に至っている状況ですが、もっともっと前に進もうとする意欲を持って更に絆を進化させましょう。

まちづくりに関わっているのは我々だけではありません。手法は違えども目的を共有する団体は地域に多数あります。そんな団体の事業へ支援するのもまたJCとしてのまちづくり活動の一環ではないでしょうか。そしてそこで得た経験や人脈を活用して更なる展開に持ち込めるようそれぞれメンバーが意識して行動し、「夢灯」だけではなく、まちの未来に関わる大きな問題に対する活動も検討していきたいと思います。

「ちから」を集結したら

お隣の方が困っていたら手を差し伸べる、友人が悩んでいたら話を聞いてあげる。人として当たり前な行動を我々は取ることができます。

我々個人の行動「ちから」を集結することにより大きな「つよさ」となります。一昨年の東日本大震災をはじめ、日本のみならず、世界中で起こる災害に対して、我々は現地ボランティア、義援金、募金活動など様々な形で「つよさ」を発揮してまいりました。JCのネットワークは世界に広がっており、行政だけでは対応しきれない支援を実行でき、その「つよさ」は我々が想像する以上に求められております。

地域防災に関しては勿論今までのJCでの経験上、発災時には被災地に駆けつけ、支援をする姿勢は常時取りたい、それに対しての準備も日頃から行うようにしたいと考えます。またこの長井西置賜地域での発災時には支援を受け入れる側としての体制も整え、行政などと常に連携して情報の共有に努めたいと思います。防災に対して我々が求められているニーズは決して突起な自主事業ではなく、行政や防災組織に対する支援、協力を通年通して実施することでは

ないでしょうか。専門団体としてではなく、まちづくり団体としての参画を意識して行動していきたいと思います。

新たな時代の青少年育成

我々の親世代、いわゆる「団塊の世代」は戦後の焼け野原の中、ゼロから今の日本を作り上げてきました。経済のグローバル化が進み、革新的技術と日本人の終生持ち合わせていた勤勉さが、世界史上稀に見る高度経済成長を生み出し、そんな時代の中に我々も誕生しました。経済は無限に成長するのではないかという妄想はバブルの崩壊と共に崩れ去り、低迷と呼ばれる安定期が20年続いています。膨張する公共事業、社会保障が多大になり、それに伴い子育て世代への負担が増しています。そして過剰な自由主義、コンプライアンス社会は日本人の生活を窮屈にしているのではないのでしょうか。

少子化の問題がさげばれてからはや十数年。事実、地域の子供たちの数が確実に減ってきている実情は明らかです。成熟した先進社会になった国家には必ず起こりうる問題であり、恐らく少子化に至った社会は緩やかな下降線を経て、安定した国家として継続していくのでしょうか。そんな日本がだめなのではないのでしょうか、少子化により経済が斜陽になったことは衰退の一步なのではないのでしょうか。

昨今、青少年のいじめによる自殺問題がメディアから消えることはありません。そこで強調されるのが教育機関のあり方です。いじめは認識していなかった、事実はない、情報を公開しない。人が亡くなっているにも関わらず、警察が介入することも稀。これは異常な体制ではないのでしょうか。いじめの原因を明らかにするのは勿論ですが、子供たちが置かれている環境に社会はもっと関心を持ち、積極的に介入する動きを見せるべきだと思います。子供は親に属するだけではなく、地域社会に属する大切な「たから」だという認識を我々は持ちたいと思います。

元々青少年育成に関わることを重要視してきたJ Cが、近年のニーズと少なからず相違が生じています。それは現在の教育システム、現在までの教育環境の変遷を知る事で解消するのではないのでしょうか。そして子供の育成に関わる地域の諸団体と情報を共有し、同調の歩みを進めることも必要ではないのでしょうか。我々と同じ世代のP T Aや教師、教育機関に関わる人たちと積極的に交流し、地域全体として青少年育成に努めるべきだと思います。

今年度、長井J Cにおいて継続的青少年育成事業を開発し、実施したいと考えます。青少年育成に対するニーズを様々な情報をもとに的確に把握し、シーズを生み出し、検証する。決して独りよがりな狭い視野によるものではなく、みんなで見つめて、みんなで見つめ、事業というシーズを蒔きたいと思います。継続的とは言っても同じ事業を毎年行うのではなく、時代、時期に合った長井JC青少年育

成事業のかたちを創りたいと思います。J C杯中学野球大会は20回を超える地域教育ニーズに合った長井J Cの継続事業であります。もう一度深く検証し、進化を求め実行していきたいと考えます。「父母に孝に、兄弟に友に、夫婦愛和し、朋友相信じ、恭儉己を持し、博愛衆に及ぼし、学を修め、業を習い、以て智能を啓発し、徳器を成就し、進で公益を広め、世務を開き、常に国憲を重んじ国宝に遵い、一旦緩急あれば義勇公に奉じ、以て天壤無窮の皇運を扶翼すべし」

現代語に訳すと以下になります。

「父母に孝行し、兄弟仲良く夫婦は仲むつまじく、友達とは互いを信じあい、行動は慎み深く、他人に敬愛の手を差し伸べ、進んで公共の利益や世間の務めに尽力し、いつも憲法を重んじ、法律に従いなさい。そしてもし危急の事態が生じたら、正義心を持って公のために奉仕し、このようにして天下に比類なき日本国の反映に尽くしていくべきです。」

これは戦前まで教育のみならず、社会全体の座標軸として浸透していた「教育勅語」の一文です。明治23年（1890年）に発布され、連合国による占領下の昭和23年（1947年）国会で排除決議されるまで、半世紀以上日本国民の心に浸透していた天皇勅語です。学校でも、行事などあらゆる儀式で必ず校長先生が朗読したそうです。ここに外れた行為は理由無く叱ることができました。グローバル化が当たり前になった現代の日本人にも通じ、現代教育において、今一度見直す価値のある教えではないでしょうか。

地域を先導する品格あるリーダーの創出

「吾、十五にして学を志す、三十にして立つ、四十にして惑わず、五十にして天命を知る、六十にして耳従う、七十にして心の浴するところに従いて則をこえず」

「論語」で知られる孔子の有名な述懐です。古代より日本にも伝わり、学問における中心的な存在でした。その「論語」にある孔子の生き方、処世法をまとめると「自分の成長、部下の成長、そして組織の成長を楽しむ。また子々孫々によき伝統を伝え、自分がよき手本として歴史に残ることを楽しむ」ということだそうです。また君子の条件について聞かれたときには「自分を磨いて人のために尽くすこと。自分の姿勢を正しくすれば、命令するまでもなく実行される。自分の姿勢が間違っていると、どんなに命令しても人はついてこない」と答えたそうです。その身の正しさは「品格の高さ」ではないでしょうか。学問、教育とは知識や経験を積み重ねるだけでなく品格を身につけることが必要だと私も考えます。

J Cは大人に成長させていただく地域の実践的青年塾です。今、この地域を先導している方々の多くはJ C出身者で、J C時代に培ってきたノウハウを遺憾なく発揮し、精力的に活動しております。

J Cを経験できなかった方々からは口々に入会して勉強しておけば良かったと言うことをお聞きします。私も10年以上この長井J Cに所属し、様々な方と出会い、お話をし、普通では味わえない経験をさせていただきました。もしJ Cに入っていなかったら今の自分は全く違う人間なのだろうと想像します。今の自分よりは知識も経験も浅く、大人になれなかったらと思うます。

地域のリーダーはいないのでしょくか。いや、現在でも多くのリーダーがいますが、更により多くのリーダーをこの地域は、日本は、世界は求めています。我々がやらねば誰がする、そんな気概を持って人材の育成に努めたいと考えます。

先輩からかつてのJ Cについてのお話を聞くと、人材育成に力を注いだことをお聞きする機会が多々あります。かつてはまちづくりと同じ比率で人材育成を重視してきたようです。公益事業でまちづくりに強く関わり、豊かな地域社会を構築するためにも我々自身で自己の品格を高めることに努めたいと思ひます。

必要とされる組織へ、会員拡大とは

長井J Cのメンバーが確実に減少しています。全国的に見てもそうです。他の団体でも会員数は減少傾向にあります。これらの原因は多々あるでしょう。しかしながらこれからの長井J Cは違ひます。確実に今年度、会員数を増やします。これは皆さんにお約束します。会員拡大にはメンバー一丸となって取り組む必要があり、その先頭に私が立ちます。しかしながらメンバーの中には会員拡大が不得手な方もいるでしょうが、少しでもいい、会員拡大に取り組もうとする志を持ってすべての事業に取り組んで欲しいと思ひます。新入会員が入会したら所属委員会を中心に世話をしてくれる雰囲気作り、そして新入会員1名につき、1年間サポートする先輩を指名し育成に努めます。また新入会員向けの塾「長井J Cアカデミー」開講したいと考えます。新入会員、入会3年未満のメンバーに対し、J Cの基本から社会常識に至るまで大人として地域に関われるよう人材育成と共に考えていきます。会員拡大は今後の長井J Cのみならず、地域のまちづくりの根本を左右する重要な案件です、J Cが地域の中心として輝ける組織として、J Cが地域を牽引する機関車として、やろう、やるよ。

山形ブロック大会 長井大会に向けての歩み

前回の山形ブロック長井大会から15年、2014年度ブロック大会開催を長井J Cメンバー全員で意思統一し、山形ブロック協議会にて承認いただき、正式に来年度の大会開催が決定しました。

私はブロック大会の開催に向けて長井J Cが主管になる、その意義、目的を列挙できます。昨年度の新庄大会ではブロック大会開催の目的を大変革した重要な節目でありました。日本J C各種大会で

も各地域の魅力再発見という「地域活性化からいち」を開催おりますが、県単位でそれを実施し、更には文化、伝統の中心である各地の祭りを一箇所の会場で披露するという試みは画期的だと思います。その地に行かなければ体験できない食や文化を同時に体験できる、そしてまたそれに再び触れたい、体験したいと思いその地へ赴き、更なる感動を引き起こす、このサイクルは現在の観光事業の根本を変革する革命ではないでしょうか。更には長井、西置賜地域の文化、伝統を深く理解してもらい絶好のチャンスです。もし開催しないのであればそういった大きなチャンスをみすみすみ見送り、ネガティブに陥ってしまいます。長井JCメンバーだけで実行するのではなく、多くの地域団体、ボランティアも巻き込んだ大きな輪の中心に長井JCがいることになり、地域の先導、リーダーとして牽引する力を発揮できる大きなチャンスであります

今年度開催の寒河江大会へは長井JC一丸となって支援できる体制を作りました。出向メンバーは勿論のこと長井JCメンバー全員で支援していきたいと思っております。

終わりに ～わたしの正義～

私は小さい時分、「何故自分は日本人でいるのだろうか、何故この長井市に住んでいるのだろうか、何故この家族とこの家に住んでいるのだろうか」そんなことを考えたことがあります。恐らく多数の人にもこのような感情を抱いた経験があるのではないのでしょうか。それを運命だと捉える人がいるかもしれない、またそれを論理的に分析し解明する人がいるかもしれない、私はそれを「必然」と捉えます。自分がこの時間、この場所に存在しているのはそこに自分が存在しているからなのです。そして自分はここでしか成し得なければならぬことを経験上理解し、それを「必然」と捉えることで自己の行動が飛躍的に広がります。今の自分を愛し、いまできること、やらねばならないこと、考えねばならないことを前向きに捉えることで人間として幸福な感情が生まれます。

私は究極のポジティブ人間であると思っております。急になった訳ではありません。人生の経験上、この考えが最も自分を生かすことができ、いい結果をもたらしてきたからです。ポジティブな考えから入れば必ずいい方向に進むことを経験上知っています。ものを考えるときに疑いやマイナスから入るよりは良いことばかり考えたほうが後のマイナス点が克服しやすくなります。

昭和52年3月29日に長井市泉の地に生を受けました。名前は鈴木喜典。親は菓子屋を営んでおり、小さいころは親に遊んでもらった記憶はほとんどありませんが、少ないながらも親の愛情というものには強烈に記憶しています。早生まれだったこともあり成長するごとに最年少、若いという周りからの言葉が多かったと感じます。長井市館町に越してきて、長井小学校、長井南中、長井高校と進学、勉

強は好きでした。高校時代、親と進路について話し、大学に進みたいと話すと快諾してくれましたが、代わりに夜間の製菓学校に通うことを約束させられました。そのころは家業を継ぐということを真剣には考えておらず、別の将来を考えていました。大学ではたくさんの仲間に出会い、多くの経験をしました。大学、製菓学校を卒業後、神奈川の製菓企業へ就職、就職というより修行、いや^{でっもぼっこう}丁稚奉公という言葉のほうが正しい気がします。そこで3年間働き、ようやく菓子を作る楽しさ、難しさを学び上司や先輩にも多くのことを学ばせていただきました。

24歳の6月、長井に帰って家業に従事することになり、その年の11月に長井JCより勧誘を受け、入会し、それぞれ11年。楽しいこともつらいこともたくさん経験しました。そして今の自分があります。自分を成長させてくれた地域に、JCに、恩返しをしたい。今年36歳、ようやく最も恩返し出来る役職に推挙していただきました。これを感謝し、チャンスと捉え行動していきます。

私は組織のトップという者は「一番働く者である」という考えを持っています。一番働き、一番大きな成果を挙げられるからトップなのであり、対価を最も貰える。トップだから偉い、尊敬されるのではなく、一番に能力があり、誰よりも動き、働くからトップなのだ。理事長という職もそうあるべきだと考えます。私自身そのような理事長を目指したいと思います。できるかできないかではなく、そうありたいと考え、遂行します。

基本理念に書かせていただいた「自己の正義を持つ」。正義とは1つではなく、人それぞれが持つものの考え方であり、別の判断基準としてその正義に対する「善と悪」があります。その人の正義が多数の人から見て「悪」と判断されればその考えを変えねばなりません。私が各個人に持っていただきたいのは「あるべき姿に社会や人間を正そうとする信念」であります。それはJC活動やまちづくり活動を経験することによって培われる考えです。心の根底にある私と皆さんの正義を、様々な経験や人との出会いによって変革し、強く養い、成長しましょう。

「他人と過去は変えられない、しかし自分と未来は変えられる」

基本理念

自己の正義を持つ justice

～あるべき姿に社会や人間を

正そうとする信念を持ち行動する～

基本方針

- ・ 先人を真似るだけではなく、先人の志を受け継ぐまちづくりの実践
- ・ 未来を担う子どもたちの育成へ地域全体が関われる体制の確立
- ・ 地域に必要とされる団体としてプライドを持った会員拡大の実行
- ・ すべての人々が成長できる人材育成事業の実行
- ・ みんなが参加したくなる委員会活動の実施
- ・ 公の精神を持ち、公益の本質を見極め行動する

重点事業

- ・ 魅力、活力ある地域の基盤となりお互いの顔が見えるまちづくり事業
- ・ すべての人が関われる地域教育の実践ひとづくり事業
- ・ JCがまちづくり運動の中核として活動できる会員拡大事業
- ・ 我々青年が品格ある地域のリーダーとして未来を先導できる人材育成事業
- ・ 出向者への支援とブロック会員大会長井大会へ向けた確実な歩み
- ・ 継続的青少年育成メイン事業の開発
- ・ 他団体活動への積極的な参加協力

スローガン

自己の信念を持って、決断！行動！！

所 信

会員大会支援室室長 樋 口 和 哉

山形ブロック大会長井大会から15年の月日が経ち、昨年度2014年度ブロック大会開催に向けてメンバー全員が意思統一をし、山形ブロック協議会にて正式に来年度の長井大会開催が決定しました。過去の大会を振り返りますと会員の研修、交流、情報交換の場等、会員による会員のための大会という枠組みの中で開催された大会という印象でしたが、昨年度より広く県民・市民に開かれた大会として地域のたからを発信する「地域活性化たからいち」や県民とともに時代の問題点を考える未来志向の場を提供し、新たな大会のスタイルを確立したのではないのでしょうか。これからも、市民参画型を意識したブロック大会を創造、実現していくことが重要であり、地域の発展に繋がると思います。

まずは、2014年度の長井大会開催に向けた準備の年としてブロックでの活動をメンバーにしっかりと伝え、情報の共有を図り、長井大会をどういった形で企画、運営していくのかをイメージ、検討する機会を設けます。また、今年度の大会に長井J Cメンバー一同が参加して実際の雰囲気を感じていただきメンバー一人ひとりの長井大会開催に向けた志気を高めていきます。ブロック大会は、長井J Cメンバーだけで実施するわけではなく多くのまちづくり、地域団体を巻き込んで行いその中心に長井J Cが存在し、地域のリーダーとしての気概をもち主体的に取り組んでいかなければなりません。2014年度は長井・西置賜が注目される年ですので、貴重な機会をしっかりとしたものにしていくために今年度の活動が非常に重要になります。

私自身、激動の一年を送ることは容易に想像のつく事でございますが、気を引き締め与えられた役割をしっかりと果たし今年度の歩みを確実なものとし、次年度のブロック大会長井大会の開催に向け精一杯の努力をして参る所存でございます。皆様とともに飛躍の年となりますように、本年一年よろしくお願い申し上げます。

所 信

副理事長 齋藤 繁 喜

社会状況がめまぐるしく変化し、地域のまちづくりに対するニーズも多様化、複雑化している今、まちづくりに関わっている私たち青年会議所への期待が高まっていると感じられます。少子高齢化が進んでいる現代社会において、核家族化、一人親世帯など家族構成の変容に伴い、子供たちを取り巻く環境が大きく変化しています。このような状況から学校側に期待される役割が増加し、もはや学校だけでは子供たちの抱えている様々な問題に対応することが難しくなっています。次代を担う子供たちが未来を描き、この地域で大人になって行く事を見据えて、子供たちにとって大切なものは何か、私たち青年会議所に求められるものは何かを考えることが必要です。

今年度は、継続できる青少年育成メイン事業の開発に重点をおいて取り組んで参ります。まず、メイン事業を開発するにあたり、子供たちの育成に関わる地域の諸団体の方々と青年会議所が積極的な対話と交流ができる場を設け、問題や課題を見出していくことが必要であると思えます。そして、対話と交流を重ねることにより、子供たちにより良い教育を提供できるような事業を検討し、構築して参ります。学校・家庭・地域が三位一体となり、強さと優しさを兼ね備えた青少年の育成を視野に入れて考えていきたいと思えます。強さとは挑戦する勇気と諦めない強い心です。目標に向かって困難を乗り越え、達成することで自分自身の無限の可能性に気づくことができます。優しさとは、人を思いやる心であります。思いやる心があれば、人と人との繋がりの中で人の気持ちを理解し、互いに尊敬しあう事ができます。この強さと優しさを兼ね備えた子供たちが、周りの人を惹きつけ、率先して行動することができる大人へと成長していけるものと考えます。

最後に、今年一年、担当副理事長として委員会がこれらを踏まえ、まちのため、子供たちの未来のために率先して行動する事をお約束させていただき、私の所信とさせていただきます。一年間どうぞ宜しくお願いいたします。

所 信

副理事長 板 垣 洋 一

2013年度副理事長という大役を仰せつかりましたこと、心より感謝致しますと同時に責任の重さを痛感し、今まで以上に気を引き締めてJ C運動、まちづくり活動に取り組んでいく所存でございます。どうぞ一年間よろしくご指導のほどお願いいたします。

一昨年、東北のみならず間接的な被害を考えれば全国各地に爪痕を残した東日本大震災。そう長い時間が流れたわけではありませんが、多くの人々にとって大分昔の出来事のように日常を送っている感じが見うけられます。もう少し自分や家族が生活を営んでいる地域、地方、国というものに関心を持ち、自分達の地域に何が満ち足りており、何が不足しているのかを認識し、その問題を一人一人が積極的に解決していくことが必要なのではないのでしょうか。

私達は幸いにもJ Cという団体に所属し、先輩諸兄がJ Cという団体の中で積み重ねてきた知識と経験を持っております。2013年度まちづくり委員会担当副理事長として、私は大竹委員長、そして委員会メンバーと共にそれらのノウハウを地域のリーダーという立場で活用し、他の諸団体、どこにも所属していない個人個人と共に地域全体の幸せ作りに取り組んでいきたいと思っております。私達J Cが中心核となり多くの人々が私達の周りでまちづくりを協働する。そのことで一人一人が思い描く幸福の形が地域全体を明るい豊かな社会へと導くのだと、私は信じております。その信念を胸に置き、鈴木理事長の思い描く地域の明るい未来像へ少しでも現状を近づけられるよう、J C活動に取り組んでいく所存でございます。

2013年を通して長井西置賜が豊かで、子供からお年寄りまで笑顔の溢れるまちになるため、そして私達J Cが更に地域から必要とされる団体に発展するため、何より私が一個人として品格ある経済人に成長していくため、一年間尽力していきますので皆様どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

所 信

専務理事 井 上 典 嗣

2012年1月に長井青年会議所は、社団法人から公益社団法人へと移行しました。これは、ただ単に法人格を移行しただけではなく、これまで長井青年会議所が地域のために行ってきた様々な活動が客観的に認められたとともに、より公の利益になる事業や活動を追及していくと社会に宣言したことだと考えます。法人格移行2年目となる2013年は、会員全員がその事を念頭に置き、昨年に引き続き公益社団法人としての礎を築いていけるように努力して参ります。そしてこれからも地域から求められる活動を積極的に行い、必要とされる団体であり続けなければならないと考えます。

2013年度専務理事という大役を仰せつかりましたことを、理事長をはじめメンバーの皆様へ深く感謝するとともに、専務理事という責任の重さと使命を実感し、身の引き締まる思いであります。

今年度理事長の鈴木喜典君から、肩を叩かれ専務理事という身の丈に合わない重役を引き受けさせていただいたわけですが、その依頼を断ろうとは思いませんでした。頼む人は頼んだ人に期待を込め、成長してほしいと願うからこそ頼むのだと思うからです。難しいことでもちょっと無理して依頼を引き受け、行動すると経験を積むことができ、その過程が自分を成長させてくれると思います。そして、そのような自分を成長させてくれるチャンスが長井青年会議所にはたくさんあります。私自身も今年度は、全メンバーに多くの依頼をしていきたいと思っております。専務理事として、メンバーの一人ひとりが活躍できる場を積極的に提供し、限りある貴重な青年会議所の時間を無駄にすることなく、JC活動の素晴らしさを実感していただけるような組織運営を行って参ります。

風間事務局長、梅津総務局長と協力しながら長井青年会議所を支えられるよう、そして専務理事としての職務を全うすることをお誓い申し上げます、所信といたします。

1年間どうぞよろしくお願いたします。

所 信

未来創造会議議長 横山 敬生

わたし達長井青年会議所は設立以来48年に渡り、そのときどきの地域の情勢を的確に感じ取りながら、地域に根差した活動を積み重ねてきたことによって、地域から求められる団体として確かな歩みとともに成長して参りました。その歩みの中で先輩諸兄より受け継いできた志を、まちづくりに積極的に携わる原動力たる熱意を、次の世代へと受け継いでいかなければなりません。その熱意の伝播こそが会員の拡大を実現し、志を同じくする仲間との出会いと交流による意識変革と自己研鑽が、次代のまちづくりを担う新たな原動力となります。

今年度、鈴木理事長のもと会員の拡大と育成、ならびにまちづくりを担う品格ある人材を育成する事業を実施して参ります。まちづくりに対する熱意を共有する仲間の創出にむけて、会員一人ひとりが同じ意識を持ち、一丸となって取り組めるよう意識喚起をうながし、情報共有を図りながら会員の拡大を実現して参ります。青年会議所は大人に成長させていただく地域の実践的の青年塾であります。生まれ育ったまちの将来を想い、積極的にまちづくりに携わり、地域から必要とされる人材となるために、地域を先導するリーダーとなるために、個々の資質を磨く機会を設けて参ります。2014年に主管させていただく山形ブロック大会長井大会の開催に向けた活動もまた、主体性を持って能動的に取り組むことにより、わたし達に多くの経験と新たな気づきをもたらしてくれることでしょう。

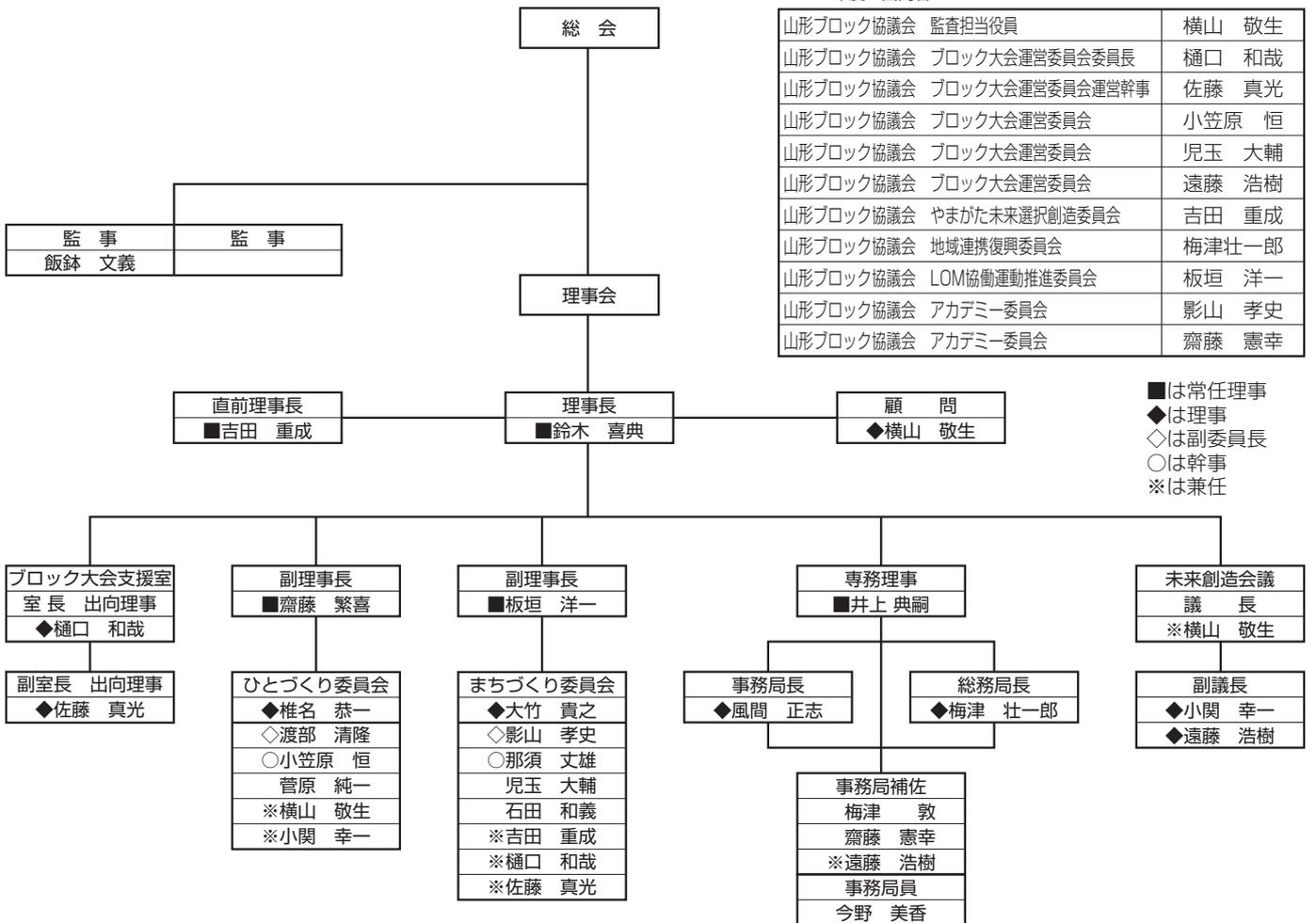
次代のまちづくりを担う原動力となる品格ある人材を育成し、活気溢れるまちを創造する。我々がやらねば誰がやる、そんな気概を持った人材で溢れる団体として成長を遂げる一年にして参ります。

このような機会を与えていただいた鈴木理事長はじめ会員の皆様に感謝申し上げますとともに初心に立ち返り、会員皆様とともに成長できる一年となるよう、一意専心に取り組んで参ります。本年一年どうぞよろしく願い申し上げます。

公益社団法人 長井青年会議所 2013年度 組織図

2013年度 出向者

山形ブロック協議会	監査担当役員	横山 敬生
山形ブロック協議会	ブロック大会運営委員会委員長	樋口 和哉
山形ブロック協議会	ブロック大会運営委員会運営幹事	佐藤 真光
山形ブロック協議会	ブロック大会運営委員会	小笠原 恒
山形ブロック協議会	ブロック大会運営委員会	児玉 大輔
山形ブロック協議会	ブロック大会運営委員会	遠藤 浩樹
山形ブロック協議会	やまがた未来選択創造委員会	吉田 重成
山形ブロック協議会	地域連携復興委員会	梅津壮一郎
山形ブロック協議会	LOM協働運動推進委員会	板垣 洋一
山形ブロック協議会	アカデミー委員会	影山 孝史
山形ブロック協議会	アカデミー委員会	齋藤 憲幸



公益社団法人 長井青年会議所 2013年度 公式スケジュール

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
		日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	
公益社団法人 長井青年会議所	常任理事会	7日(例)	1月31日(例)	2月28日(例)	3月28日(例)	4月25日(例)	5月30日(例)	6月27日(例)	7月25日(例)	8月29日(例)	9月26日(例)	10月31日(例)	5日(例)	
	理事会	11日(例)	7日(例)	7日(例)	4日(例)	2日(例)	6日(例)	4日(例)	1日(例)	5日(例)	3日(例)	7日(例)	12日(例)	
	担当	2012年度事務局	未来創造会議	まちづくり委員会	ひとづくり委員会	未来創造会議	まちづくり委員会	事務局	事務局	事務局	事務局	事務局	事務局	
	例会・総会	1月通常総会 30日(例)	会員拡大 ミーティング 日時未定	地域交流事業 日時未定	青少年教育座談会 18日(例)	人材育成講座 16日(例)	地域活性化事業 【みんな 灯そう～夢灯】 日時未定	ブロック大会 寒河江大会 6日(例)～7日(例)	8月通常総会 22日(例)	次年度理事長 候補者所信(案) 発表 19日(例)	置賜4LOM 合同例会 日時未定	卒業式 21日(例)	次年度事業発表会 日時未定	
	事業	事務局	事務局		未来創造会議	まちづくり委員会	まちづくり委員会	ひとづくり委員会	ひとづくり委員会			ひとづくり委員会	まちづくり委員会	まちづくり委員会
		新青賢詞文交會	山形ブロック協議会 会長公式訪問 南陽 19日(例)		長井JC アカデミー 日時未定	長井駅周辺 整備事業 日時未定	地域の元気 創造事業(仮) 日時未定	ながい寺子屋 日時未定	納涼パーティー 22日(例)		JC杯中学野球大会 一年生大会 日時未定	防災に関する事業 日時未定	クリスマス パーティー 日時未定	
					ひとづくり委員会	ひとづくり委員会 JC杯中学野球大会 日時未定	まちづくり委員会 フラワー ボランティア教室 日時未定							
	フォローアップ・その他			ひとづくり委員会		事務局	まちづくり委員会・事務局			事務局		まちづくり委員会・事務局		
				ながい雪灯り 回廊まつり		ながい黒獅子まつり	17LOM協働運動 【ふるさと OMOIYARI プロジェクト】			ながい氷まつり		フラワー長井線 まつり		
	山形ブロック 協議会	正副会長会議	16日(例)南陽		13日(例)寒河江	17日(例)米沢	15日(例)新庄	19日(例)山形	6日(例)寒河江		18日(例)長井	16日(例)河北	13日(例)山辺	
会員会議所会議		26日(例)南陽		23日(例)山形	27日(例)鶴岡	25日(例)米沢	29日(例)酒田	6日(例)寒河江		28日(例)村山	26日(例)天童	23日(例)南陽		
主要事業		新春交歓会 (南陽) 26日(土)	各エリア訪問	各エリア訪問			ふるさとOMOIYARI プロジェクト	ブロック大会 (寒河江)				ブロック卒業式 (南陽) 23日(例)		
周年事業 アカデミー委員会 総会				会議公式訪問				6日(例)～7日(例)						
東北地区協議会	正副会長	4日(例)山形 25日(例)塩竈		1日(例)原町	25日(例)久慈	24日(例)大館	28日(例)青森		23日(例)田村	27日(例)酒田	18日(例)能代	22日(例)八戸		
	役員会議	11日(例)仙台	8日(例)仙台	15日(例)大曲	19日(例)白石	10日(例)青森	8日(例)南陽	12日(例)横手		6日(例)大曲	11日(例)江刺	1日(例)相馬		
	会員会議所会議	19日(例)京都											6日(例)山形	
	ゼミナール委員会		開校式 9日(例)～10日(例) 仙台								ゼミナール開校式 (大曲) 7日(例)			
公益社団法人 日本青年会議所	総会	19日(例)京都		10日(例)宮城							5日(例)奈良			
	理事会	18日(例)京都	16日(例)	9日(例)	13日(例)	18日(例)	22日(例)	19日(例)横浜		21日(例)	4日(例)奈良	16日(例)	14日(例)	
	ブロック会長会議	18日(例)京都	16日(例)	9日(例)	13日(例)	18日(例)	22日(例)	19日(例)横浜		21日(例)	4日(例)奈良	16日(例)	14日(例)	
	主要事業	京都会議(京都) 17日(例)～20日(例)		復興フォーラム (宮城) 10日(例)					サマソングフェス(福岡) 20日(例)～21日(例) 国際アカデミー (福山)		全国会員大会 (奈良) 3日(例)～6日(例)			
J C I	J C I 常任理事会/理事会 (J C I J E M / J B M) 5日(例)～10日(例)			アメリカ 地域会議	アフリカ・中東 地域会議 ヨーロッパ 地域会議	J C I 中間 常任理事会 アジア・太平洋 地域会議					J C I 世界会議 (リオン・デ・ジャネイロ) 5日(例)～10日(例)			

2013年度

事業計画

未来創造会議

議長	横山敬生
副議長	小関幸一
副議長	遠藤浩樹

【基本方針】

私たちと一緒に活動できる仲間を増やすこと、それは地域のまちづくりの根本を左右する重要なことです。2014年の山形ブロック大会を契機に、長井・西置賜地域の活気溢れるまちづくりを実現し、新しい仲間を生み出すために会員拡大を実行しなければなりません。また「まちづくりはひとづくりから」と言われるように、地域の将来を次代につなぐ責任世代として、地域に貢献できる人材としての資質を高めていかなければなりません。

まずは、まちづくりを担う新たな原動力として、JCのみならず地域に深く関わり貢献できる人材を育成するために、会員拡大は最重要課題であることを会員一人ひとりが認識し、鈴木理事長を先頭に身近な方とのコミュニケーションを大事にして、今年度、会員数を確実に増やしていきたいと考えます。そして、新たな仲間の創出に向け会員一人ひとりが同じ志を持ち一丸となって取り組み、会員の意識喚起と情報共有を図り、積極的に意見交換を行えるよう実施して参ります。さらに、積極的にまちづくりに関り地域から必要とされ、地域を先導するリーダーとなるため、現役会員が新入会員をしっかりサポートしながら、原点に立ち返り青年会議所の基本や社会的一般常識を再認識する機会となるセミナーを開催します。また、品格あるリーダー創出のために「我々がやらねば誰がする」そんな気概を持って、会員の意識変革と自己研鑽を実現し、この地域の各種団体、行政、地域住民と深く関わり交流することで、この地域の更なる活性化に繋げ、地域との絆を強固なものとし、明るい長井・西置賜の未来を創造する会員交流・育成事業を実施して参ります。

最後に、この一年を通し、常に未来創造会議体が強く関わり先導し、新たな人材の創出と育成に努め、この長井・西置賜地域から求められ、必要とされる組織の活性化を実現し、会員一人ひとりがまちづくりに参画することで、誇りと輝きに満ちた組織を創造します。

【事業目的】

- 1、まちづくりに対する熱意を共有する仲間の創出と育成により、活力溢れる人材を創造する

- 2、会員の意識変革と自己研鑽を実現する会員交流・育成事業の実施により、活気溢れる組織を構築する
- 3、次代のまちづくりを担う新たな原動力となる人材の育成により、活気溢れるまちを創造する

【事業計画】

事業名	事業内容	日時・場所	予算	主務
会員拡大の執行主務	まちづくりに対する熱意を共有する仲間の創出と育成	通年	¥0	全員
会員拡大ミーティング	仲間の創出に向けた会員の意識喚起と情報共有を図る	2月	¥20,000	遠藤
長井JCアカデミー	会員の意識変革と自己研鑽を実現する会員交流・育成事業の実施	4月	¥10,000	遠藤
人材育成講座	次代のまちづくりを担う新たな原動力となる人材の育成を図る	5月	¥50,000	小関

予算合計 ¥80,000

まちづくり委員会

担当副理事長 板垣 洋一
委員長 大竹 貴之

【基本方針】

これまで長井青年会議所はそれぞれの時代に出現した諸問題、未来を見据えた課題に対してJC運動で解決できる事を考え、実施してきました。これまでの志を大切に、地域の人々の心に幸せをもたらす事が私達まちづくり委員会の使命だと考えております。

回を重ねるごとに規模を拡大させ、協力団体も増加し、地域内での知名度も年々高まってきた「夢灯」。5回目を迎える今年は、これまでに得た良い点はしっかりと受け継ぎ、課題点や問題点は一つひとつ検証し、今までよりも更に前進させた「夢灯」にしていきます。その為には、まちづくりを共に行っている方々と対話を重ね、互いに協力しながら更なるまちの活性化と交流の場を創出していきます。

また、自分達が住むこの地域を「いいまち」だと思い、大切にしたいと思えば、まちの活性化の原動力になると考えます。この地域を更に大切に思ってもらう為に、これまでのフラワーボランティア教室や長井駅周辺整備事業といった継続事業は勿論、地域住民が参加できる事業を展開していきます。

2011年3月11日に発災した東日本大震災から2年近い月日が過ぎようとしており、私達の住んでいるこの地域にも多くの人々に移り住んで来ています。私達はこの震災から人と人との絆の重要性に気付かされました。JCとしてその気付きを活かし、地域防災に地域住民が積極的に参加できるように働きかけていきます。また、避難してきている人々に元気や笑顔を提供する事も私達にできる支援だと考え、その気持ちを胸にそれぞれの事業に取り組んでいきます。

まちづくり委員会は、世の中の現状を心に刻み、所属は違えど志を同じくする仲間を集い、まちの更なる発展に繋げられるような活動を行っていきます。小さな一歩ではあるかもしれませんが、確実な一歩を歩んでいきます。

最後となりますが、長井青年会議所が一丸となってまちづくりに取り組めるよう、私達まちづくり委員会が率先して行動していきます。皆様ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

【事業目的】

- 1、地域住民と協働し、さらなる活気溢れるまちにしていく。
- 2、地域住民の愛郷心を醸成する。
- 3、防災意識の向上を図る。

【事業計画】

事業名	事業内容	日時・場所	予算	主務
地域交流事業	行政、他団体との交流、親睦を深める事業。	3月	¥10,000	影山
長井駅周辺整備事業	長井駅の壁画保全及び花壇の手入れをする事業。	5月	¥20,000	全員
フラワーボランティア教室	児童を対象に、植栽を通じて思いやりの心を育む事業	5月下旬～ 6月上旬	¥60,000	那須
地域活性化事業 「みんなで灯そう 夢灯」	まちづくりを共に行っている方々と連携、協力し合いさらなる長井西置賜の魅力を引き出し活性化に役立たせる事業。	6月	¥535,000	全員
地域の元気 創造事業(仮)	まちづくりを共に行っている方々と連携、協力し合いさらなる地域交流の活発化を図る事業。	6月	¥985,000	全員
防災に関する事業	地域防災力の意識向上を図る事業	11月	¥15,000	
クリスマス パーティー	メンバーが一年間の活動を振り返り家族に感謝する事業	12月	0円	

予算合計 ¥1,625,000

ひとつづくり委員会

担当副理事長 齋藤 繁 喜
委員長 椎名 恭 一

【基本方針】

今日子どもたちを取り巻く環境は、ライフスタイルの変化、情報の氾濫、個々人の価値観の多様化など、複雑化が進み、それらに端を発した諸問題も発生しています。また、最近の社会風潮やマスコミ報道は、成功を収めたほんの一握りの人物を英雄視し、わずかな失敗も厳しく批判する雰囲気には溢れています。そこで、少子高齢化が進むこの時代に、子どもたちにとって失われている大切なものは何かを考えて事業を展開してまいります。

子どもたちに必要であり、学ぶべきことは人とのふれあいであると思います。教科書や塾で習う知識だけではなく、親子、仲間同士、世代間、といった人びととのふれあいが大切であると考えます。そこで、現代社会においておざなりになりかけている道徳観や倫理観、優しさや厳しさなどを正しく伝えていきたいと思います。そして、失敗を恐れずに困難な事にも勇気をもって挑戦することで得られる達成感や、失敗したからこそ学べる貴重な経験などから次世代を担う子どもたちの豊かな心を育んでまいりたいと思います。

さらに、青年会議所として今後どのような立ち位置、切り口で青少年を育成すべきかについて、子どもの育成に関わる地域の諸団体との、積極的な対話・交流を推進してまいります。将来を見据えた新たな一歩を踏み出せるように、地域の諸団体とのパートナーシップの構築を図ってまいります。そして、そこから得る地域の問題や課題、魅力を今後、青年会議所として継続できる青少年育成のメイン事業の構築に反映させるべく取り組んでまいります。

そして、子どもたちはやがて大人になり、私たちの地域社会を支える大きな原動力となります。将来にわたって人と共生するにあたり、人を思いやり助け合える心を持つ事の出来るような青少年の育成の実現と、郷土に学び、郷土を大切にす心の育成を念頭に置き地域に根ざした事業を、みんなで取り組んで参りますので1年間よろしく願いいたします。

【事業目的】

- 1、自己表現力やコミュニケーション能力の育成
- 2、心の豊かな人間性を育む。
- 3、「親力」を高め、家庭の教育力を向上させる

【事業計画】

事業名	事業内容	日時・場所	予算	主務
青少年教育座談会	自身の子供や地域の子供を育成するための親力を高め、家庭の教育力を向上させる。	4月	¥0	
親力を高める講演会	子供を育成するための「親力」を高め、家庭の教育力を向上させる。	5月	¥350,000	小笠原
青少年育成メイン事業	困難なことに挑戦し、課題や問題を解決しようとする力を育成する。	7月	¥569,000	全員
第22回JC杯中学野球大会	より多くの実践経験を積むことで、今後に向けた目標や課題を明確にするための機会を提供する。	5月	¥140,000	渡部
第22回JC杯中学野球大会一年生の部	1年生が主体となる実践を通して仲間とのコミュニケーションを図り、今後の目標や課題を立てる機会を提供する。	10月	¥26,000	渡部
納涼パーティー	OBの皆様をお招きし情報の発信、親睦を深める。	8月	¥0	菅原

予算合計 ¥1,085,000

事 務 局

専務理事 井 上 典 嗣
事務局長 風 間 正 志

【基本方針】

長井青年会議所は地域から必要とされる団体として、様々な活動を通して我々が住むこの地域の発展に携わって参りました。地域のリーダーとしてメンバー一人ひとりが確固たる信念を持ち、他でもない自分自身がこの長井の未来を担っている事を自覚し、後世の青年世代に対し誉れある長井青年会議所であったと胸を張って示したいと考えます。長年にわたり先輩諸兄が築いてきた歴史があります。その誇りと志を胸に、2013年度が長井青年会議所にとって輝かしい歴史の1ページに連なる様邁進して行く所存でございます。

本年度事務局では常任理事会、理事会のスムーズな運営は勿論の事、各事業、例会がより良いものになる様各委員会と綿密に連携を取り合い、円滑なLOM運営を行える様全力で支援して参ります。そして地域の中心的団体として各他団体とを繋ぐ連結的役割を果たす為、積極的に他団体活動にも参加協力し連携を図りたいと考えます。

2014年度には長井青年会議所が主管となる山形ブロック大会長井大会を控えており、本年度の寒河江大会から本格的なPR活動が開始されます。会員大会支援室と共に事前準備をしっかりと行い、その成功に向けメンバー一人ひとりが一体感を持ち臨んで行ける様頑張る参ります。また、同じく来年度にはASPAC山形大会、酒田の地にては東北青年フォーラムが開催されます。これにより例年にも増して山形ブロック協議会を始めとし、県内の各LOMとの連絡調整が必要となって来る事が予想されます。迅速かつ正確な情報伝達は当然の事ですが、県内各LOMとの人と人の交流、親交を深める事も重要であると考えます。各地におもむく際には長井JCのメンバーがひとりでも多く参加し、2014年度が特別な年であることを肌で感じ、盛り上がり繋いでいける様に努めて参ります。

メンバー全員が自己の責任、参加意識を持ちながら明るく楽しく充実感に満ちた活動に取り組める様、総務局とも連携し事務局一同、一生懸命頑張る参りますので一年間どうぞ宜しくお願い致します。

【事業目的】

- 1、LOM内の円滑な運営業務・各種とりまとめを行う。
- 2、各委員会及び全メンバーに対するサポートをしっかりとる。

【事業計画】

事業名	事業内容	日時・場所	予算	主務
公益社団法人維持に関する事項	公益社団法人化に基づく提案と助言をし、公益団体としての運営体制を構築する。	随時	¥0	全員
常任理事会並びに理事会運営	常任理事会及び理事会の資料作成と運営	随時	¥0	全員
卒業式	卒業式の実施	11月	¥50,000	全員
新春賀詞交歓会	OB及び諸団体の方にも参加頂き、JC活動の情報発信と活動に対する意欲向上と図る事業。	1月・はぎ苑	¥15,000	全員
17LOM協働運動	ブロック事業のOMOIYARI運動を協働して実施する。	6月	¥0	全員
置賜4LOM合同例会	置賜4LOM合同例会の実施。	10月	¥50,000	全員
日本JCアワードへのエントリー	2012年度LOM事業をJCアワードに申請し、客観的評価を得る機会とする。	8月	¥0	全員
各種大会、会議とその他対外行事への対応、連絡調整	各種大会、会議とその他対外行事への対応と参加推進。	随時	¥0	全員
年会費の徴収	会員の年会費の徴収	随時	¥0	全員
事務処理業務全般	事務処理業務全般の実施	随時	¥0	全員
記録の管理	記録のデータ管理	通年	¥2,000	全員

予算合計 ¥117,000

総 務 局

専務理事 井 上 典 嗣
委員長 梅 津 壮一郎

【基本方針】

今年度、長井青年会議所は、社団法人から公益社団法人に移行して2年目の年となり、地域の方々からも更なる期待を頂いております。これまでの活動をベースに、さらに飛躍するべく、メンバーが一丸となってJC活動を継続していく事が必要だと考えます。

私たち総務局は、他委員会と違い、組織の裏方に回る職務がメインになります。しかし、長井青年会議所の組織全体を纏める重要な役職であり、メンバーがスムーズに活動できるよう総務業務を遂行していかなければなりません。

まずは、総務局の重要な職務である総会の円滑な運営と、正確かつ迅速な議事録作成は勿論であります。また、ホームページの運営、広報誌「あゆみ」では、長井・西置賜地域の方々に、私達の活動をより広く、力強くPRしていきます。ホームページや広報誌「あゆみ」は会員拡大にも大変有効ですので、JC活動に興味を持って頂ける内容、魅力ある内容に努めます。また、Facebookなどのツールも積極的に活用し、地域内外により新鮮で良質な情報を発信していきます。

担当例会の次年度理事長候補者所信発表例会は、次年度の長井青年会議所の方向性が決まる非常に重要な例会です。メンバー一人ひとりが次年度理事長候補者の熱き想いや考えを、深く理解することが不可欠であり、1年間の活動の柱となる所信内容を全メンバーで共有していけるような機会といたします。

「明るい・豊かな社会の実現」に向け、私たちは公益的な事業を継続して実施しております。総務局では、事務局と連携して各委員会の活動をバックアップし、そして、2014年度に開催される「山形ブロック会員大会長井大会」の成功という大きな目標に対して、メンバーが一致団結し、一体感を持って力を発揮できるよう全力でサポートして参ります。

長井青年会議所がさらに魅力的な組織へと進化するため邁進していきます。今年度、1年間よろしくお願いたします。

【事業目的】

- 1、LOM 組織の円滑な運営
- 2、JC 活動を力強く発信する

【事業計画】

事業名	事業内容	日時・場所	予算	主務
次年度理事長候補者所信発表例会	次年度理事長候補者による所信発表例会の開催	9月未定	¥5,000	全員
次年度事業発表例会	次年度委員長候補者による事業発表例会の開催	12月未定	¥0	全員
会員褒賞の実施	例会及び各種大会の出席状況をもとにメンバー内での褒賞を行う	12月未定	¥0	全員
ホームページ運営	ホームページの運営・管理	通年	¥0	全員
広報誌「あゆみ」	広報誌「あゆみ」の発行	6月予定	¥200,000	全員

予算合計 ¥205,000

2013年度

収支予算書

収支予算書 (案)

2013年1月1日から 2013年12月31日まで

(単位:円)

科 目	予 算 額	前年10月 補正予算額	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1)経常収益				
基本財産運用益	0	0	0	
基本財産受取利息	0	0	0	
特定資産運用益	0	0	0	
特定資産受取利息	0	0	0	
受取入会金	180,000	60,000	120,000	
受取入会金	180,000	60,000	120,000	¥20,000×9名(新規会員数)
受取会費	3,212,000	3,414,000	△ 202,000	
正会員会費	3,132,000	3,294,000	△ 162,000	¥108,000×25名(年初会員数)+年度内 入会者分¥54,000(月割による)×8名
特別会員会費	40,000	80,000	△ 40,000	¥20,000×2名(卒業生より)
賛助会員会費	40,000	40,000	0	¥20,000×2名(長井市長、長井商工会議所 会頭より)
その他会費	0	0	0	
事業収益	315,000	97,100	217,900	
登録料収益	310,000	89,500	220,500	JC杯中学野球大会登録料¥60,000、青少 年育成メイン事業登録料¥250,000
広告料収益	0	0	0	
販売収益	5,000	7,600	△ 2,600	JC杯中学野球大会パンフレット販売収益
雑収益	0	0	0	
受取補助金等	850,000	1,050,000	△ 200,000	
地方公共団体補助金	200,000	0	200,000	青少年育成メイン事業 長井市中心のまち づくり活動推進補助金¥200,000
民間補助金	630,000	0	630,000	親力を高める講演会市民文化会館サポー ト事業補助金¥100,000 長井市PTA連 合会¥30,000、夢灯長井まちづくり基金 ¥500,000
地方公共団体助成金	20,000	20,000	0	フラワーボランティア教室 長井市より 謝礼金¥20,000、
民間助成金	0	1,030,000	△ 1,030,000	
受取負担金	0	150,000	△ 150,000	
受取負担金	0	150,000	△ 150,000	
受取寄付金	750,000	585,000	165,000	
受取寄付金	750,000	585,000	165,000	夢灯 企業協賛金 ¥3,000×250口
受取寄付金振替額	0	0	0	
雑収益	5,000	5,000	0	
受取利息収益	0	0	0	
その他の雑収益	5,000	5,000	0	JCカード還元金
経常収益計	5,312,000	5,361,100	△ 49,100	
(2)経常費用				
事業費	3,956,244	3,866,656	89,588	
地域開発事業	1,801,130	2,398,350	△ 597,220	
青少年育成事業	1,341,130	678,230	662,900	
公益事業共通	228,499	248,007	△ 19,508	
内部例会及び会員交流系事業	233,775	162,841	70,934	
広報系事業	282,355	299,355	△ 17,000	
その他組織運営に関する事業	69,355	84,355	△ 15,000	
収益事業等共通	0	0	0	
科 目	予算額	前年10月 補正予算額	増 減	備 考
管理費	1,175,756	1,301,248	△ 125,492	
役員報酬	0	0	0	
給料手当	0	0	0	
退職給付費用	0	0	0	
福利厚生費	88,000	88,000	0	お祝い、電報他
会議費	20,000	20,000	0	理事会、総会、例会会場使用料
旅費交通費	0	0	0	

通信運搬費	20,000	20,000	0	郵送料、ファックス代他
減価償却費	0	0	0	
消耗什器備品費	0	0	0	
消耗品費	90,000	130,000	△ 40,000	消耗品、スローガン看板作成
修繕費	0	0	0	
印刷製本費	348,000	415,000	△ 67,000	総会資料・手帳、会員拡大勧誘パンフレット他
燃料費	0	0	0	
光熱水料費	0	0	0	
賃借料	20,000	20,000	0	JCルームの賃借料¥20,000×12ヶ月
保険料	7,000	8,120	△ 1,120	ボランティア活動保険：¥280×25名（年 初会員数）
委託費	131,355	131,355	0	長井商工会議所事務員¥420,000：1ヶ月 ¥35,000、ホームページ作成・更新、ホ スティング料等¥107,100
租税公課	2,000	2,000	0	
支払負担金	308,063	315,462	△ 7,399	JCI負担金¥29,436：¥892×25名（年 初会員数）+¥892×8名（新規会員数） 日本JC負担金¥175,000：¥30,000（基 本額）+¥5,000×25名（年初会員数）+ ¥2,500×8名（新規会員数） 地区協議会負担金¥42,500：¥5,000（基 本金）+¥1,500×25名（年初会員数）+ ¥10,000×0名（ゼミナール委員出向者 数） ブロック協議会負担金¥145,000： ¥10,000（基本金）+¥5,000×25名（年 初会員数）+¥5,000×2名（アカデミー 委員出向者数） 国際協力資金¥45,625：¥1,825×25名 （年初会員数） 日本JC出向者負担金¥0：0 We Believe購読料¥99,000：¥3,000×25名 （年初会員数）+¥3,000×8名（新規会 員数）
支払寄付金	0	0	0	
支払利息	0	0	0	
交際費	80,000	80,000	0	関係団体年会費、周年会議所お祝い、電 報他
雑費	61,338	71,311	△ 9,973	振込手数料他
経常費用計	5,132,000	5,167,904	△ 35,904	
評価損益等調整前当期経常増減額	180,000	193,196	△ 13,196	
基本財産評価損益等	0	0	0	
特定資産評価損益等	0	0	0	
投資有価証券評価損益等	0	0	0	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	180,000	193,196	△ 13,196	
2. 経常外増減の部			0	
(1) 経常外収益	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
他会計振替額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	180,000	193,196	△ 13,196	
一般正味財産期首残高	2,386,296	2,193,100	193,196	
一般正味財産期末残高	2,566,296	2,386,296	180,000	
II 指定正味財産増減の部			0	
受取補助金等	0	0	0	
.....	0	0	0	
一般正味財産への振替額	0	0	0	
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	2,566,296	2,386,296	180,000	

(注) 前年度予算額は、10月理事会で承認された補正予算額である。